

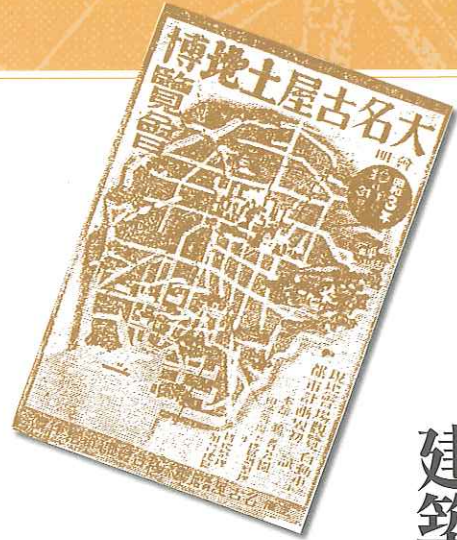
# 都市創作

第一卷第一號  
大正十四年九月二十五日

黒川一治	巻頭言	(一)
石川榮耀	土地増價税に関する考察	(二)
狩野力	神戸市の跡になる迄	(三)
黒川一治	都市創作としての露西亞	(四)
狩野力	都市計畫法逐條解説	(五)
石川倍三	少女達の観た公園	(六)
小島浩	街路の曲線について	(七)
	土地區劃整理状況	(八)
	土地區劃整理施行手續要項	(九)
	會報	(一〇)
	出版の旨(編輯人・顧問・編集委員等)	(一一)
	編輯後記	(一二)

●定価＝本体揃価格二〇〇、〇〇〇円十税

大正14年〜昭和5年



全10巻  
別冊1

愛知県の都市形成史を中心に、戦前の主要都市における  
建築・交通・緑地・住宅・経済等を論じた、  
都市計画雑誌の復刻版！

# 都市創作

## ●復刻の辞

『都市創作』は、大正十四年(一九二五)に都市計画愛知地方委員会を中心として設立された「都市創作会」の機関誌であり、同年九月に創刊され昭和五年(一九三〇)四月「都市公論」への合流問題が生じるまで刊行された。大正九年(一九二〇)の都市計画法の施行とともに、東京・横浜・名古屋・大阪・京都・神戸に設置された都市計画地方委員会は、昭和初年までにいわゆる「六大都市」の都市拡張計画を策定したが、その中で得られた新たな知見と技術は、「都市問題(東京市政調査会)」、「大大阪(大阪都市研究会)」、「都市研究(兵庫県都市研究会)」、「都市創作(都市創作会)などの機関誌に蓄積されていった。それらは、内務省という中央官庁の視点と、その監督下にありながらも地方の特性を刮目しようとした地方委員会の視点が共存しており、東京一極集中する以前の中央と地方の関係を省察する上で貴重な資料である。

所収されている論考は極めてユニークであり、執筆者は都市計画の揺籃期を代表する多士済々が居並ぶ。例えば「小都市主義への実際」(第三巻第一号)では大都市至上主義を批判し、「夜の都市計画」(第二巻第一号)では、後の新宿歌舞伎町計画の原型を見出す石川榮耀や、レイモンド・アンウィンと文通しながら「山林都市(二名林間都市)」(第二巻第二号〜六号)を連載し日本型の田園都市論を創出する黒谷了太郎などである。また「土地区画整理」特集(第二巻第九、一〇号)、「大名古屋土地博覧会」特集(第四巻第一〇、二二号)、「笹原辰太郎」特集(第五巻第八号)などは、近代名古屋の都市形成を考える上で必読の第一級の文献資料である。

このような「正統学派」としての「都市学」の樹立を目指した貴重な資料内容を含む『都市創作』の全巻全号を原本所蔵する図書館と機関はなく、様々な機関の協力を得て漸く復刻に漕ぎ着けることができた。研究者のみならず、広く実務担当者の方々にも利用・活用願うものである。

堀田典裕

戦後都市計画を育てた雑誌

藤森照信

東京大学生産技術研究所教授

名古屋の町は、日本には珍しく、道は広く、公園は充実し、いつてしまえば都市計画がよく実行された都市として知られている。もちろん戦後になってからの計画実行なのだが、どうして名古屋だけが焼野原の上にそのようなちやんとした都市計画ができたのだろう。

市長や行政の指導力が強かったから、と聞いたことがある。ナルホドと思いつながら、他にも似たくらい指導力の強いところはあつたらうに、と考えて、再び首をかしげざるをえない。

おそらく本当の理由は、このたび復刻された『都市創作』誌のせいじゃあるまいか。大正一四年に創刊され、都市計画の重要性を関係諸方面と市民に向かって説きつづけたのである。

説きつづけた人物は何人もいるが、創刊号から書きつづけたのが石川栄耀であることに私は注目した。なぜなら、戦災復興の全国の都市計画をリードしたのは石川だからだ。

日本の戦後都市計画の輝く星ともいべき石川栄耀は、名古屋で『都市創作』で育つたのである。

大正から昭和初期にかけての主要地方都市の都市計画事情にとどまらず、戦後の日本全国の都市計画の基本を知るためにもこの雑誌は欠かせない。



都市計画思潮の新たなソースとしての『都市創作』

鳴海邦碩

大阪大学工学研究科教授

東京が『都市問題』、大阪が『大大阪』、兵庫が『都市研究』、そして名古屋(愛知)が『都市創作』というのは、なかなか面白い。機関誌名に、それぞれの地域で初期の都市計画が目指そうとした方向が表れていると思う。

名古屋の都市計画といえば、石川栄耀が思い浮かべられるが、石川が一九二〇年に都市計画地方委員会技師として名古屋に赴任したとき、愛知地方委員会の初代幹事は黒谷了太郎であった。この黒谷と石川が手を携えて、名古屋の都市計画の検討にあつたのである。黒谷は後に、一九二七年から一九三〇年までの間、出身地である鶴岡市の市長を務め、鶴岡市の初期の都市計画に大きな影響を与えた。

黒谷は内務官僚で、レイモンド・アンウィンとの交流があつた。この黒谷が『都市創作』の中で、興味深い論考を書き続けており、なかでも『山林都市』と題する一連の論考は、『都市創作』の思潮を代表しているものと思われる。黒谷が描いた『山林都市』は田園都市の精神を受け継ぐが、田園都市とは異なり、周囲に農業地帯ではなく山林地帯を設け、工業と林業の結合をねらつたものであつた。

大阪の堀川、京都の東山、奈良の若草山、東京の隅田川、こうした山や川が日本を代表する都市には存在しており、それが人びとの誇りとなり都市の魅力になっている。これに対して、名古屋は『取り柄のない町』と認識されていた。ベルリンには大きな川はないが森がある。名古屋はベルリンのような森のまらづくりを目指そう。本誌に掲載されたいくつかの論考から、黒谷の山林都市と石川のアイデアが融合しこのようなコンセプトが生まれ、それが名古屋の都市計画に反映したことが読み取れる。これが一つの『都市創作』であつた。

その他、例えば創刊第一号に、狩野力による『少女達の観た公園』という論考がある。こうした一群の論考が、日本都市の将来をどのように見据えたかを知ることは、次代の都市計画を考える上でも参考になる。その点からも、名古屋(愛知県)の『都市創作』に対し、兵庫県の『都市研究』は、どのような都市像を描いたのであろうか。興味を持たれるところである。

推薦のしるし

内容見本

山林都市 (一名林間都市)

黒谷 杜 鵬

此の山林都市一名林間都市は、都市と工業とを、生活と生産とを、研究して居る私の「ユートピア」である。ユートピアは實現の價値なき夢だと云つて嘲つた時代は過ぎ去つた。ユートピアは事實に於て文明の母である。ユートピアを實現しやうとする努力と奮闘とが、發明や発見を産み、更に革新と改造とを成就して、遂に今日の文明をも産み出したことは、覆ふべからざる事實である。されば私のこのユートピアも、一口に價値なきものと貶さず、眞面目に耳傾けられて、何ぞかして實現する方法を研究してくれたならば、獨り私の爲めのみならず、社會の爲めにも國家の爲めにも、如何に幸福であらうかと思ふ。其の大意は左記の通りである。

大意

- 一、都市集中は社會上諸種の弊害を醸生すること。
二、都市集中は都市自身の爲めのみならず國家の爲め、甚だ不利なること。
三、都市集中に基く都市内の弊害を除去するは、近代都市計畫の精神であらうけれども、我國に於ては之れが頗る困難なること。
四、英國に於ては都市救済の根本策として都市集中に反對し、田園都市を作りて人口の分散を企てつゝあること。
五、我國に於ても都市生活を有意義ならしめんが爲めには、都市集中を避け、別に新しき町即ち新理想都市を築造せざるべからざること。
六、然かも日本に於ては土地高價なるを以て、英國に於けるが如く田園都市を築造する能はざること。
七、我が國に於ては山林を利用し、田園都市の代りに、山林都市を建設せざるべからざること。
八、山林都市は田園都市の精神に基き、工業を中心として市街を建設し、市民をして衛生的に、文化的に生活せしむるものなること。
九、山林都市はロマンティズムに従ひ、築屋的に計畫せられ、人工美と自然美とを好く調和せしむるものなること。
一〇、山林都市は田園都市よりも、より多く大自然に接近せしむるものなるを以て、大都市の不自然なる唯物的闘争生活から離れて、萬物共存の自然的共同生活に復歸せしむるものなること。
一一、山林都市は都市の文化設備と天然自然の美觀とを併せ有するものなるを以て、市民は樂しく働きて、美しく生活するを得、従つて能率も増進し、精神は安定し、勞働争議は之れなきこと。
一二、故に社會改良家及科學的工業經營家は、是非とも山林都市の建設に努力すべきこと。

本論

従來の大都市は恰も誘蛾燈の様なものであつて、人を四方から引付けて而して之を殺してしまふのであるが、多くの人は之を知らずに清らかな農村を見捨て、都市へ都市へと集つて来て、窮屈な住宅に入つて、汚い空気を吸つて、悪い病氣に罹つて、代る／＼消へて行くのは、誠に氣の毒な事である。

第一巻第一号(大正15年2月)より

言頭卷

都市は自然と人間との間に産れた最巨大な摩訶不思議の謎である。歴史の或時代にそれは人類の温かい家となつてゐるかと思へば、一時代を劃き去つてもう「田園人」の恐るべき死の塔に變つてゐる。嘆美派の詩人は此をシヨク手あるダリアと誇稱して愛人の様に懐しむかと思へば、ユートピアは救ふべからざる瀕死を視るが如く悲しんで居る。まことにそれは太陽の如く烈々であるが故に、何人にも正視を許さなかつた如くである。

☞

十九世紀末迄我々は此の謎をそのまゝに、人文地理學者なり經濟原論學者の研究閑話として放つておいてよかつた。太陽はそのまゝに仰ぐ必要はなかつた。併し今「現代文化」即「都市文化」を解釋され、従つて「現代病の全部」がこゝごとく「都市病」に起因するものと評ひられて居る今日。又都市の人口が殆ど國民人口の五割を占め、都市の盛衰消長は直に一國の隆替興廢に懸つてゐる今日。現代人は——殊にこゝに自ら都市計畫家を濫稱して此の難局に當らむとする我々は今更に自らの無智なることを悟り無智なることの罪過を人類に謝し、非常なる覺悟を以て眼をひる逆此の太陽を正視す可き運命と責任を背つた様に思ふ。即こゝに我等は先づ常識の對象としての都市計畫を超へ正統學派としての「都市學」の樹立を期したい。

☞

次に我々六年の短かい経験によるも都市計畫のいかに細末の一案たりとも此を携へて世に問ふ時、常に我が耳目を疑はしめるは、あげつらひ来る市民の論議が、殆どこれに我等は或時は天下のタマニーへの鋭い征矢となり、最後の一矢も餘さず戦ふ覺悟を持つ。

☞

更に我々はこの資本戰の阿修羅場に安俟の惰眠を食つてゐる市民を思ふ。彼等は「タマニー」たるがらにのみして徒に天に委ねられた敷地を恣い、に荒るゝにまかすか、二三近眼子のあやまられたる計畫に甘むじてゐる態度は同じく此を大いにして國家への罪である。

☞

こゝに我等は断えず市民を醒ます警鐘のつき手となり、無智なることはいかに豫想を許さぬ歎であるかを悟らせる機關となりたい。

☞

最後に我々は天職として都市計畫家たることを誇り、都市計畫が既存の藝術、社會施設、工學の渾てを超へた創作の最新しい一部門であることを信じるものである。そしてその同類意識は天下に同じ理想と抱負の下に孤然力強き歩みを行くものゝ母体でありたいと冀ふ。衆は力である。更に純情は力である。我々同じ「心」に燃ゆるもの、相寄り相親しみ結んで街頭に立つならば、神かけて「爲す可き事」必ず「成る」事を信じる。かく思ひかく信じこゝに都市創作會を結んだ。敢へて天下の士の諒解と聲援を待つ

第一巻第一号(大正14年9月)より

# 都市創作

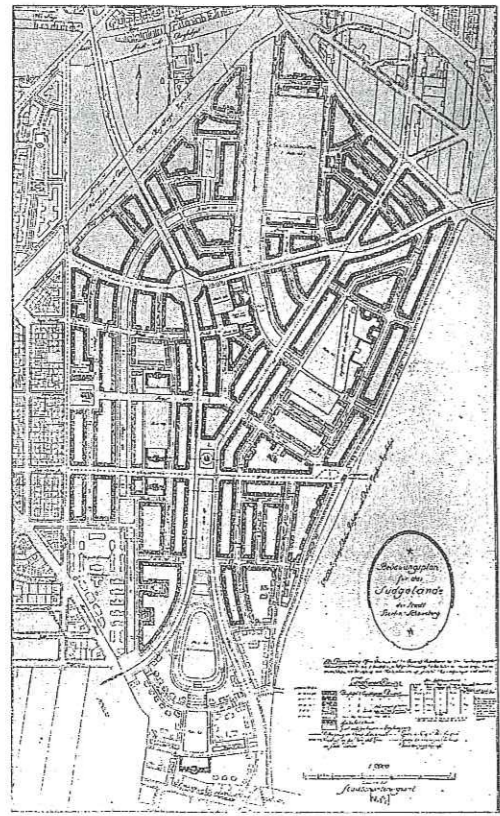
## 都市計画の「生」の声を聞く

片木 篤

名古屋大学大学院環境学研究科教授

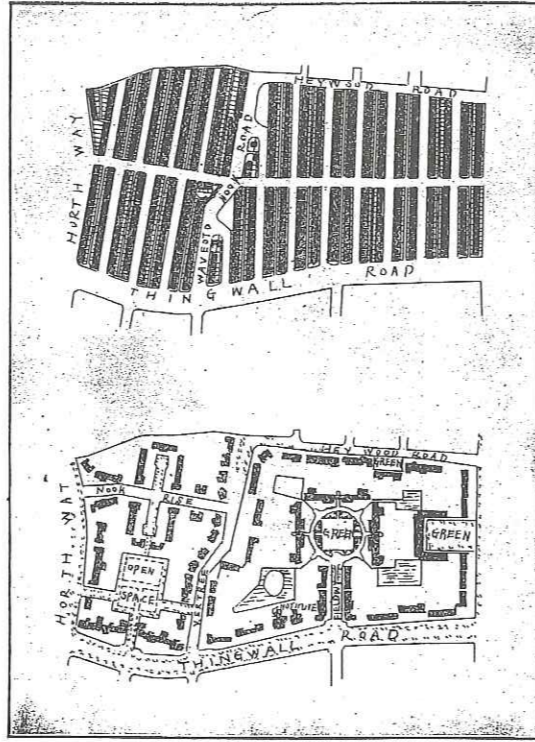
もとより私は、日本の都市史、都市計画史の専門家ではない。イギリスの近代住宅を、モリス、ウェブ、ショウ、ラッチェンスと辿っていく中で、その理論とデザインが、住宅の集合、すなわち住宅地や都市の計画へと受け継がれ、ハウードの「田園都市」(一九〇二年)、アンウィンの「都市計画の実践」(一九〇九年)などの著作、あるいはレッチワース(一九〇三年)やハムステッド・ガーデン・サブール(一九〇五年)などの実作が生み出されたことを、遅まきながら学ぶようになった。イギリスでの近代都市計画黎明期の様々な試みと田園都市への結実は、内務省地方局有志「田園都市」(一九〇七年)などを通じていち早く日本にも紹介されたが、そのネーミングとイメージだけが、鉄道・不動産会社開発による郊外住宅地の宣伝に使われたとばかり思い込んでいた。

しかしながら、名古屋大学の同僚、堀田典裕氏から都市計画愛知地方委員会の活動とその機関誌「都市創作」の存在を聞き、実際に読んでみると、日本の近代都市計画に対する私の認識が、いかに浅薄なものであったかを思い知らされることとなった。とりわけ、素人でありながら、アンウィンと文通し、日本型田園都市を提案した黒谷了太郎の「山林都市」(一九二六年連載)には驚かされた。そればかりではない。「都市創作」には、建築、造園、都市に関わる様々な理論、設計法、制度を生み出そうとする清新なる思索があり、潑刺たる試行がある。そこには、テクノクラートによるルーティン・ワークと化す以前の都市計画の「生」の声がこだましている。コンパクト・シティ、サスティナブル・シティの標語だけが一人歩きし、現行の技術・制度に縛られてその実現への手掛かりさえ見出せない今こそ、日本の近代都市計画を生み出した先人たちの「生」の声を聞き、そこから自由闊達な発想を学ぶことが求められているのではなかろうか。



猫通り曲線道路 パール、ワルフ氏設計

(二)舞臺設置式のものであつて、群居全部を一つの風景にする手法である。



上圖は容利主義の敷地割計画で一エーカーに四十一軒建てて置いた所それでは都市計畫の真意に反するとして、一エーカー一軒に制限し下圖の如く現在では理想的敷地割が出来が又つた。(リパールの郊外)

第一巻第一〇号(大正十五年十月)より

第六卷第一号(昭和五年二月)より

小計	通稱俗に或名路街のもの依に等稱 B						の も る 依 に 名 町 A											
	II 横 街 路 名 式		I 並 進 街 路 名 式		IV 電 車 線 路 交 叉 街 路 名 式		計		計		計							
	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数							
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七七	六〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九六	六一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

小計	の も る 依 に 名 町 A						の も る 依 に 名 町 B					
	II 横 街 路 名 式		I 並 進 街 路 名 式		IV 電 車 線 路 交 叉 街 路 名 式		計		計		計	
	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

小計	依 に 名 町 A						依 に 名 町 B					
	II 横 街 路 名 式		I 並 進 街 路 名 式		IV 電 車 線 路 交 叉 街 路 名 式		計		計		計	
	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	適例 数	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

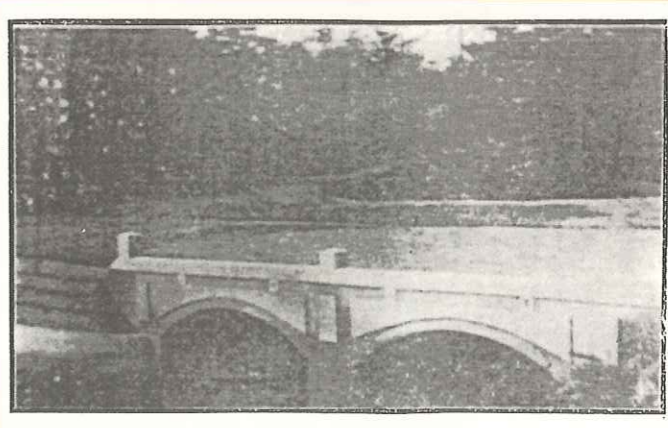
第三表 六大都市に於ける市街電車停留場名別表内譯

其一、町名及街路名に依るもの



音聞山土地區劃整理地區小景(六間道路)

第三巻第一〇号(昭和二年十月)より



(近附渠暗人準) 景小區地理整地耕山南

第三巻第一〇号(昭和二年十月)より

第四巻第一号(昭和三年二月)より

都市創作第一卷總目錄

論説 土地増徴税に関する考察 黒川一治 一〇〇
都市計画の受査者負担 黒川一治 一一〇
市人の公園計画 長崎敏吉 一二〇
水質の保存と美化 岡崎早太郎 一三〇
信託制度の運用に待つ都市計畫事業 四〇

研究

郷土都市の語になる迄 石川榮理 一五〇
『断章の二』土地開發マルトン案 二〇〇
『断章の二』夜の都市計画 狩野力 二一〇
開港時の利用と住宅の影響 黒谷了太郎 二二〇
町名・町界及地帯の整理方案 長澤忠郎 二三〇
市場の話 長澤忠郎 二四〇
中央卸賣市場に就て 谷口成之 二五〇

實務資料

土地區劃整理施行手續 一五五
實務問答 二〇〇

本會の趣旨

目的 都市計畫開地方計畫に關する諸般の事項を研究調査し當局に後援して之が改良促進及事業の促進に努めて以て都市并地方の福利増進に貢献すること。

組織

本會の總旨を實現するものを本會の會員とす。
會員は年額會費六拾圓を納む。但し地方に在住し月刊雑誌のみの購付を受けもつる者は四拾圓拾圓とす。

都市創作第二卷第一號總目錄

論説及研究 道路開設に伴ふ建設敷地整理方案 黒谷了太郎 一〇〇
水の保存と美化(2) 黒谷了太郎 一一〇
都市計畫(郷土都市の話になる迄の断章の二) 中央卸賣市場に就て(2) 黒谷了太郎 一二〇
山手林野(名林間都市) 黒谷了太郎 一三〇
都市の街路の照明(郷土都市の話になる迄の断章の三) 近郊鐵道歩道 黒谷了太郎 一四〇
都市計畫に對する御注文の色々 黒谷了太郎 一五〇
街角射除に就て 黒谷了太郎 一六〇
葵塔の構成(郷土都市の話になる迄の断章の四) 道路開設に伴ふ建設敷地整理の必要 黒谷了太郎 一七〇
米國都市の配電施設と街路照明施設 名古屋に於ける街路網と土地區劃整理 設計案より 同(道々歩む人達の爲に) 歩法を意味する換地處分の一例に就て 東部丘岡地區劃整理に就て 土運車遊樂に就て 都市計畫としての土地區劃整理 土地區劃整理事業補助金の急務 廣小路の記念碑は何故移されしや

法制

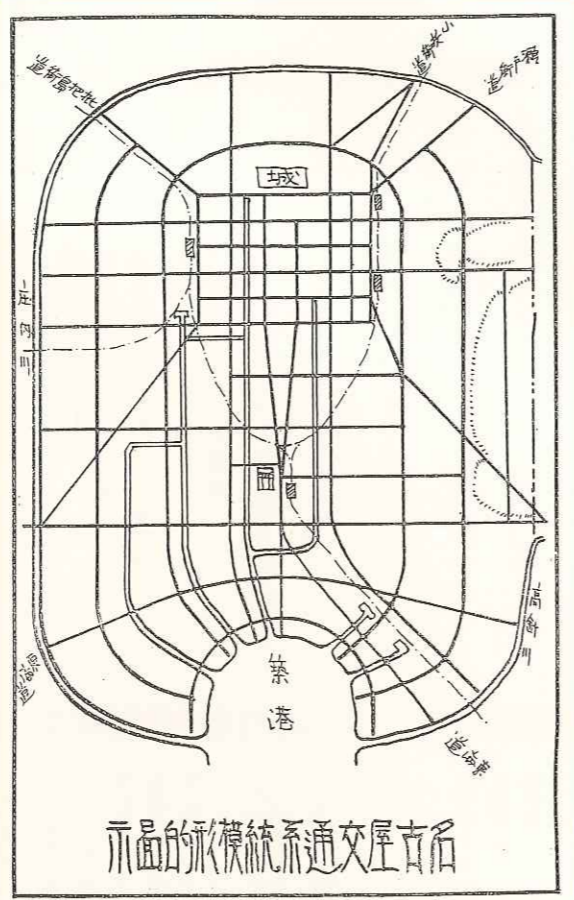
都市計畫法逐條解説 自第七條、至第二十條 黒川一治 二一〇
信託小話 同 二二〇
法第二十九條の許可の效力を發生せず 同 二三〇

實務資料

土地區劃整理施行手續、設計圖例 同 二四〇
土地區劃整理補助金申請を讀みて 同 二五〇
「金もけ」の話 同 二六〇
居敷・危言 同 二七〇
名古屋の街路と公園 同 二八〇
どんたぐばなし 同 二九〇
街路照明漫談 同 三〇〇
小都市の消防設備 同 三一〇
都計春秋、未來の夢 同 三二〇
都計春秋、未來の夢 同 三三〇
名古屋土地區劃整理事業の沿革 同 三四〇
八事耕地整理の經過と土地區劃整理に對する希望 同 三五〇
名古屋東郊耕地整理組合概況 同 三六〇
京阪土地區劃整理の現況 同 三七〇
土地區劃整理と住宅經營の事 同 三八〇

彙報

東京に於ける土地區劃整理 同 三九〇
名古屋土地區劃整理地盤紹介 同 四〇〇
遊園地見たま、開いたま 同 四一〇
凸凹問答 同 四二〇
土地區劃整理補助金を讀みて 同 四三〇
名古屋都市計畫街路新設及擴張追加 同 四四〇
名古屋都市計畫公園新設及擴張 同 四五〇
大名古屋交通系統の構想的圖示 同 四六〇
名古屋都市計畫事業新設受査者負担規程 同 四七〇
名古屋の高速交通機関 同 四八〇
速度に依る交通整理 同 四九〇
英國百年間の人口、三十年間の家屋 同 五〇〇
名古屋三十年間の風向風速 同 五一〇
名古屋市内労働賃金 同 五二〇
名古屋都市計畫事業五緯線沿道地盤調査 同 五三〇
車庫整理 同 五四〇
全國三年間地方別土地賣高 同 五五〇
都市計畫事業受査者負担金徴收處分取消訴訟に對する駁決 同 五六〇
東海都市計畫事務行合會協同問題 同 五七〇
愛知縣大正十六年度土地區劃整理補助費 同 五八〇



第二卷第一号(大正十五年二月)より



第二卷第一号(大正十五年一月)より

廢刊豫告

吾都市創作は、來月第六卷第四號を最後として、廢刊することに決定いたしました。事ここに来れる願末は、更めて終刊號をもつて發表いたしますが取あへず、單直に「都市公論」へ合流問題がこの機因を作せるものなることを御報告いたしておきます。

都市創作會

# 都市創作

## 復刻版概要



全10巻・別冊1(全2回配本)  
大正14年〜昭和5年

- **体裁**—— A5判・上製・五、二八四頁
- **別冊**—— 解説・総目次・索引  
別冊のみ分売可||本体価格1,000円十税  
ISBN4-8350-5495-4
- **解説**—— 堀田典裕(名古屋大学大学院工学研究科助手)
- **推薦**—— 片木 篤・鳴海邦碩・藤森照信
- **原本**—— 発行者||都市創作会  
第1巻1号(大正一四年)〜  
第6巻3号(昭和五年)全55冊
- **原本提供**—— (財)名古屋都市センター  
京都大学工学部図書室
- **配本**—— 第1回配本||第1巻〜第5巻・別冊1  
(二〇〇五年五月刊)  
本体価格1,000円十税  
ISBN4-8350-5483-0  
第2回配本||第6巻〜第10巻  
(二〇〇五年九月刊)  
本体価格1,000円十税  
ISBN4-8350-5489-X
- **定価**—— 本体価格2,000円十税

## 関連図書

### 都市公論

全64巻・補巻1・別冊1(大正8年〜昭和20年)

A5判・上製・総36、500頁

- **別冊**…… 総目次・索引(別冊のみ分売可||本体価格3,000円十税)
- **定価**…… 本体価格975、000円十税 **国切**

### 新都市

全20巻・別冊1(昭和20年〜昭和35年)「復興情報」を含む

B5判・上製・総8、900頁

- **別冊**…… 解説・総目次・索引(別冊のみ分売可||本体価格3,000円十税)
- **解説**…… 越澤 明(北海道大学教授)
- **定価**…… 本体価格380、000円十税

### 建築と社会

全87巻・別冊1(大正6年〜昭和30年)

A5判、B5判・上製・総39、000頁

- **別冊**…… 解説・総目次・索引(別冊のみ分売可||本体価格18,000円十税)
- **解説**…… 山形政昭(大阪芸術大学教授)
- **定価**…… 本体価格1,540,000円十税

### 史蹟名勝天然記念物(大正編)

全3巻・付録1・別冊1

A4判、A5判・上製・総1、510頁

- **内容**…… 史蹟名勝天然記念物 第1巻〜第3巻  
史蹟名勝天然記念物保存協会報告 第1回〜第6回
- **別冊**…… 解説・総目次・索引(別冊のみ分売可||本体価格1,000円十税)
- **解説**…… 丸山 宏(名城大学教授)
- **定価**…… 本体価格68、000円十税

● 表示価格はすべて税別。

## 不二出版

〒113-0023  
東京都文京区向丘1-2-12  
電話03-3812-4433  
フアンシヨウ03-3812-4464  
振替001600294084